

## 第2回福井城史料調査委員会 概要

日 時 平成25年1月10日(木) 14:00~16:00

場 所 県庁2階 中会議室

### 議事概要

#### ○御天守について

(吉田委員)

- ・詳細は分からないが、立面図で施設の概要は把握できるので、福井城に関わる建築物の中では復元の可能性は高い部類に入る。絵図に書かれている天守台の配置は現況とほぼ一致しており、平面的な規模もわかる。
- ・松原先生は寛文大火後の再建のための図面と言っているが、建築の形式をみると初期のものと考えられる。再建のための図面かもしれないが、少なくとも秀康時代の史料を参考にして作成された図面であろうと考えている。
- ・松平文庫の史料は原図の写しであり、江戸初期のものではない。工大の史料も原図の写しであり、京都の古本屋で発見された。浄光寺の史料も工大の史料と同じような写しだろう。

(田中委員)

- ・史料の年代を解明しないといけない。また、天守台の発掘調査により、絵図面の平面図の寸法と合致するか確認し、史料の信頼性を確かめる必要がある。

(吉田委員)

- ・現況と絵図面を比べると、現況の方が一尺ほど大きいですが、礎石の位置は合致する。

#### 御座所について

(舟澤委員)

- ・城町邸新築目論見図(松平侯爵邸)は元の御座所の場所と同じような位置にあり参考になるだろう。

(田中委員)

- ・遺構面が削られていないようなら、まだ遺構が出てくる可能性はあるだろう。

(仁科委員長)

- ・東側の堀の石垣は折れの位置を発掘して確定していくことが必要だろう。堀の位置が確認できれば、表示ができる。あとは御座所をどこまで調査するか。

(吉田委員)

- ・御座所の復元は建物を想定しているが、長屋門だけでも復元できると良い。金沢でも写真と図面でやっており、長屋門なら今の史料でも復元が可能。

## ○櫓・御門について

(田中委員)

- ・瓦御門の部分も1 mくらい埋め立てられているとのことであれば、地下には枳形の石垣も残っているのではないかと。平面位置が確認できれば、図面や写真もあるので、県庁との関係や交通の処理などを考えれば、復元の可能性は大きい。

(仁科委員長)

- ・発掘で平面的な調査をすると、立面も分かる史料があるので可能性は高いということ。御本城橋の脇の石垣は積直しをした時に位置を少しずらしたと聞いている。

(田中委員)

- ・山里口御門は石垣が残っているし、平面の史料もある。

(仁科委員長)

- ・過去の調査では、地下部分の石垣にも柱跡が残っているのを確認した。一番しっかりとしている印象。あとは構造が分かる史料だけ。

(吉田委員)

- ・2階部分の石垣にも柱跡がある。南側の石垣には屋根の傾斜跡も残っている。

(田中委員)

- ・地盤面が1 mも上がっているので、本来の姿にするなら1 m掘り下げる必要がある。周辺との段差の処理が問題になる。

(仁科委員長)

- ・史料は残っているので、石垣の下まで全て発掘調査する必要がある。

(吉田委員)

- ・御廊下橋も復元されており、山里口御門が復元されることで、城の構えもしっかりとし、西側が観光の正面になるだろう。山里口御門の復元が最優先と考える。

(田中委員)

- ・他の門は現況が道路などであり復元は難しい。将来的には道路の付替えがあれば、その時に跡地での復元を検討することは可能だろう。

(仁科委員長)

- ・桜御門は絵画史料がたくさん残っている。全体的にビジュアル史料が少ないなかで貴重。

(印牧委員)

- ・桜御門は町方に開かれた大手門であり重要な門。

(田中委員)

- ・櫓周辺の調査はしていないか。巽櫓は写真も残っており、まずは発掘調査により平面位置を確認しないとイケない。写真はあるのだから、状況を確認できると復元の可能性はかなりあるだろう。

(吉田委員)

- ・隅の柱位置にある土台の石にはノミの跡もあり、天端の石垣自体は残っている。石垣は福井地震で崩れているのではないか。

(田中委員)

- ・積み直した時の写真があれば櫓の地下の状況が確認できるかもしれない。当時の資料を確認すること。

(仁科委員長)

- ・城郭の外にある加賀口御門は、位置も把握されていて表示はあるが、統一されていない。福井駅から近い距離に多くの史跡があり、統一デザインにして案内することで、歩いて楽しめるようになる。御門等の跡地は道路等となっていて、すぐに一体的な復元整備はできないので、統一したサイン表示は短期的取組みとして良いのではないか。

(田中委員)

- ・門などの表示にも活用できるので、発掘調査の結果から、現況図と城下絵図を重ね合わせた資料を作成して欲しい。

(吉田委員)

- ・櫓周辺の土塀の腰板が青いのは笏谷石を使っているからではないか。敦賀酒造の外壁も同様だが、珍しいものであり、福井城の特徴になる。

(印牧委員)

- ・福井城旧景をみると、巽櫓は白壁で坤櫓は吉田委員指摘のように描かれている。

(田中委員)

- ・調査がまだ充分でない。時代の特特定や発掘調査を更に進めていくことが必要。

## ○仁科委員長まとめ

- ・瓦御門は、県庁舎等の移転の議論の中で、枳形石垣などの基本的な城の構造を戻したうえで、瓦御門などの施設を復元していくことが理想である。まずは本来の城の姿、構造に戻す方向が良い。
- ・御座所は調査を継続して、石垣などのデータをもっと集める必要がある。
- ・下馬御門などは現況の土地利用では復元が難しいが、絵画史料も豊富にある。提言するとすれば、サインやプレートで表示する手法が考えられる。
- ・御天守や坤櫓、巽櫓は写真等の史料も多く残っており、現存する史料の面では、他と比べて復元の優位性がある。
- ・山里口御門は、支障物もなく、枳形石垣も唯一残っていることから、一番復元可能性が高い。御廊下橋との一体性も出ることから復元する価値も高い。